# 03/06/01 礼拝メッセージ 近藤修司 牧師

主 題:あなたがすくわれたわけ

聖書簡所:ペテロの手紙第一 2章9-10節

救われたすばらしさをペテロは何度も繰り返して教えます。この手紙でも、クリスチャンにはすばらしい神の祝福が与えられていることを教えて来ました。2章4節では「主のもとに来なさい」と、救われた者は主と真剣な交わりを持ちなさいと言っています。神との交わり、その時間をもつことは信仰の成長のために欠かせないことです。神のすばらしさは私を通して外に向けて証されて行くのです。これは神が私に働かれるわざです。私たちは神のすばらしさが分かれば分かるほど、自分に与えられている神の恵みが分かります。私たちは頭で分かっていることを心で実感するのです。頭だけの偽善的な信仰になっていないか、自分の信仰を吟味する必要があります。私たちはいつも、救いのすばらしさを覚え、生かされているのは何のためかを考えることです。

2章4節から、ペテロは救われたことによって与えられた特権、祝福について教えてきました。

- (1) あなたは主に属するものとなった
- (2) 主に似たものである
- (3) 主に仕えるものとなった

救われたものは聖なる祭司とされたのだと教えています。旧約の祭司は神と人との仲保者として、罪のとりなしをし、神のおきてを教え、いけにえを捧げました。新約のクリスチャンは一人一人が祭司とされたのだと教えるのです。聖なる祭司として主に仕えて行くのです。そして、9,10節では四つ目のことを教えています。

# (4) 主を証するものとなった 2:9,10

9節「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。 それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみ わざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」

前に述べたことを受けて「しかし、」あなたがたはちがう!のだと言うのです。なぜなら、6-8 節にペテロは救いのすばらしさを教えた後、そのイエスのすばらしさを受け入れない、それを拒む人がいたからです。救われた私たちは、

# 1) 選ばれた人(種族)です

イザヤ43:20に「野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水をわき出させ、荒地に川を流し、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。」とありますが、この「わたしの選んだ者」が同じ意味です。イスラエル民族は神の選民ですが、私たちも神に選ばれた者なのです。

#### 2) 王である祭司です

王であるイエスに属するもの、王であるイエスの祭司です。救われたものはやがて、千年王国でイエスとともに王として治めることになります。ヘブル4:16を見ると、「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」とあります。「恵みに御座」とは至聖所のことです。旧約の祭司は年に一度だけそこに立つことを許されていたのですが、新約のクリスチャンはいつでも神の前に立つことができる、そのような特権に与ったのです。いけにえの動物の血も必要ありません。イエス・キリストの血によってそれが可能となったからです。黙示録1:6に「また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。」とある通りです。

## 3) 聖なる国民です

クリスチャンはこの世では寄留者です。国籍は天にあるのです。天国民としてこの地上に一時的に住む者です。この世でのわずかな時間を、神のみこころを行なってゆくことが私達の目標ですから、無駄に過ごさないように生きるべきです。I コリント6:19, 20 「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」

## 4) 神の所有とされた民です

神のものとして焼印を押されているのです。その証拠は私たちのうちにある聖霊です。

救われたものはこのような特権を得たのです。

では、なぜ神は、このような罪人の私を救ってくださったのでしょう。

それには、神が私に何を期待しておられるのかを知ることです。9節の後半に「それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」とあるとおり、神のすばらしいみわざを宣べ伝えるためです。「宣べ伝える」とは広く宣べる、公布する、公にする、明らかにするという意味ですが、これは、「~から、出る、~によって」ということばと「宣べる」ということばの合成語です。そして、「~から、出る」というのは行為の出所を示し、「~によって」はその行為者を表わします。ですから、「みわざを宣べ伝える」ことは神によって救われた者すべての働きだというのです。

すばらしい神のみわざを伝えなさいと言います。これは伝道です。伝道というと私たちは構えてしまいがちですが、自分に与えられた救いのみわざを明らかにすることです。この9、10節には「やみの中」と「光の中」、「以前は神の民ではなかった」ことと「今は神の民であること」、「以前はあわれみを受けない者であった」ことと「今はあわれみを受けた者」と対比しています。神はすべての人が悔い改めて救われることを願っておられます。その救いを拒み続けているのは人間の方です。旧約のホセア書1:10「イスラエル人の数は、海の砂のようになり、量ることも数えることもできなくなる。彼らは、『あなたがたはわたしの民ではない。』と言われた所で、『あなたがたは生ける神の子らだ。』と言われるようになる。」、同じ2:23には「わたしは彼をわたしのために地にまき散らし、『愛されない者』を愛し、『わたしの民でない者』を、『あなたはわたしの民』と言う。彼は『あなたは私の神』と言おう。」とあります。「あわれみを受けない者であった」というのはずっとその状態だった、自分の意志でそうであったことを示します。そして、「あわれみを受けた」というのは、ある時に心を開いて救いを得たということです。救いはこのように神の一方的な恵みです。

ペテロは自分の救いを証しています。ルカの福音書を見ると、8:26から悪霊につかれたレギオンの救いのことが書かれていますが、38,39節を見ると、イエスによってその悪霊を追い出された人が、イエスにお供をしたいと願ったとき、イエスはこう言われました。「神があなたにどんなに大きなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」と、これが伝道なのです。自分自身になされた神のみわざを話すことです。

パウロもそうしました。使徒の働き26章を見るとパウロがアグリッパ王に話している様子が記されています。パウロは証、弁明をしたのです。神が自分にしてくれたことを語っています。自分の証をしたのです。20節では「ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと宣べ伝えてきたのです。」と言っています。

そして、神のみことば、悔い改めのメッセージを語るのです。使徒26:22、23には「こうして、私はこの日に至るまで神の助けを受け、堅く立って、小さい者にも大きい者にもあかしをしているのです。そして、預言者たちやモーセが、後に起こるはずだと語ったこと以外は何も話しませんでした。すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復活によって、この民と異邦人とに最初に光を宣べ伝える、ということです。」とありますが、パウロはみことば以外は何も語らないと言います。彼が語ったのは悔い改めのメッセージでした。人々には耳に痛いメッセージです。聞きたいことではありませんでした。今でも、人々が好むメッセージは天国のこと、どうすれば幸せになるのかということで、悔い改めること、さばきに会うことなどは聞きたくないとします。人を救われるのは神のわざです。私たちはこの神のみことばを曲げることなくストレートに語ることです。それが救われたものの働きであり、責任です。神が私に託されていることです。そして、この働きは「神の助けを受け、堅く立って」と神が助けてくださるからできるのだと、パウロは言います。

⇒これが神によって救われ、今生かされている目的なのです。I コリント9:16,17「というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならないことだからです。もし福音を宣べ伝えなかったら、私はわざわいに会います。もし私がこれを自発的にしているのなら、報いがありましょう。しかし、強いられたにしても、私には務めがゆだねられているのです。」、パウロは自発的にしていると言います。

私たちの周りには救われないで地獄に向かっている人があまりにもたくさんいます。その人たちに私たちはあわれみの思いをもって、神のみことばを語る務めが与えられていることを覚えましょう。地上の人生はつかの間です。永遠をどこで過ごすのか、私たちはこの週も救いのメッセージを携えてそれぞれが遣わされているところへ出て行きましょう。